

「株式会社 姫路シティ FM21」

第41回 放送番組審議機関 審議会議事録

1. 開催日時 平成22年9月18日(土曜日) 午後1時30分～午後3時
2. 開催場所 姫路市本町68イーグレひめじ地下2階 ミーティングルーム

3. 出席状況

- 1) 委員総数 11名
- 2) 出席委員数 8名
- 3) 出席委員の氏名(敬称略、順不同)
有馬 妙子 梅宮 功 岩成 孝 大谷 昭仁
岸田 直美 衣笠 愛之 福井 舞 柳谷 郁子
- 4) 欠席委員の氏名(敬称略、順不同)
井上 重義 金山 光鎬 宮本 節子
- 5) 会社側出席者氏名
白井 正敏 (専務取締役 放送局長)
山南 俊雄 (常務取締役 営業部長)
小幡 博 (営業企画 課長 兼 放送総務 課長)
小林 寛幸 (放送総務部編成制作担当)

4. 議題

(1) 放送局長挨拶

4月～サイマルラジオを開始し、インターネットをつかったコンテンツの提供にも努めている。交通情報についてはガソリンスタンドからの提供だったものから、日本道路交通情報センター提供のものとなり、回数も増やして対応している。市内だけではなく西播磨一体の道路情報を提供している。

7月期限となっていた無線局の免許更新を実施した。10月に更新される。5年間有効のものであり、内容については特段の変更事項はない。

今後は、10月より2名のパーソナリティが変更となるため、習熟につとめたい。昨年度実施した番組コンテスト、パーソナリティ体験講座・養成講座も実施したい。

(2) 平成22年6月度からの事業報告

1. 黒田官兵衛シンポジウムの開催

7月1日（木）にあいめっせホールにて実施した。会場は満席であった。

2. 夏休み子供ラジオ教室の実施

8月8日（日）に実施した。2組4名の小学生と保護者が参加し、ラジオキットの制作・ラジオ番組出演・作文発表を行った。

3. スタッフ研修会の実施

8月26日（木）にスタッフ全員を対象とした研修会を実施した。講師として、山南営業部長・三浦パーソナリティが担当した。

4. 実験番組「つながるアワー」の放送

第1回：6月26日、第2回：7月31日に放送。ラジオ（サイマルラジオ含む）と動画配信サイトustream・つぶやきサイトツイッターを組み合わせた、見て聴いて参加して楽しめるラジオ番組を実験的に放送。以降、第5週土曜日に放送予定。

5. スタジオライブカメラについて

FMゲンキのスタジオ内に設置したカメラの映像をパソコンで見れるサービスを開始した。ゲスト出演が多いため、関係者などに楽しんでもらうことを目的。

6. GENKIラジオクラブ団体会員番組について

開局より設置している市民ラジオサークル（ボランティア）に団体会員制度を取り入れて、複数の団体がグループで番組制作を行っている。

- ・ ラジオ文庫（朗読サークルビーンズ）
- ・ 相生らじお、赤穂らじお
- ・ 姫路経済新聞ニュース

7. 総合防災訓練への参加

9月1日に姫路セントラルパークで実施された総合防災訓練に参加した。会場アナウンス補助や番組内での生中継を行った。

(3) 事業計画

1. 新パーソナリティの登用

「GENKI虹色キャンバス」千原澄子、「サンデーリクエスト」吉岡崇

2. 番組コンテストの実施

3. パーソナリティ体験講座、養成講座の実施

5. 審議内容

事務局より資料説明・試聴のあと、質疑応答を実施した。

- 委員 パーソナリティ体験講座、養成講座の実施に当たっての上限人数は決めているのか？
- 事務局 部屋の広さ等の関係上、上限を10名ぐらいで考えている。
- 委員 GENKIラジオクラブの会員数は？
- 事務局 非活動会員を毎年減らしているため、現状は30人弱程度。ただし団体会員は入っていない。
- 委員 大学でインターンシップを導入しているところもあるが、日程にあうようであれば学生の参加を促してもよいのではないか。
- 審議会長 FMゲンキではインターンシップの受け入れはしているのか？
- 事務局 過去に加古川南高校が参加していた。トライやるは条件があれば受け入れているが、大学・短大はなかったように思う。
- 委員 条件があえば、受け入れていただければ有り難い。
- 事務局 受講料についても、学割を設定している。大学生・専門学校生は半額にしている。かなり安い金額であると思う。
- 委員 GENKIラジオクラブの会員数はある程度確保したほうが良いと思う。興味をもった学生を入会させるということもできるのではないか。
- 事務局 大学生には積極的に参加してもらいたいと思っている。土曜日 午後10時～は兵庫県立大学広報同好会、兵庫大学音楽放送研究会に番組枠を提供している。その中からボランティアスタッフとしてスカウトし、GENKIラジオクラブの大学生DJとして1時間番組を隔週で2名に参加してもらっている。営業がいる前で、なんでもかんでも無料とは言いにくい。
- 委員 学校側に学生を受け入れてくれる代わりに広告をとということが言えると思う。
- 事務局 スタッフが学校にお伺いして授業をしたりもしているので、お声がけいただきたい。

- 委員 今年の入学案内にFMゲンキと書かせていただいたが、それを見た学生などから関心をもっているという声を聞いている。
- 事務局 ぜひいろんな形で参加していただきたい。
- 審議会長 大学といい関係を結べたら良い。
- 委員 パーソナリティの年齢幅は？
- 事務局 中心は40代前後ではないか。下は大学生もいるが。
- 委員 1人か2人は幅を持たせたほうが良い。先日運転をして他のラジオを聴いていたら90歳のおばあさんがDJをしていると聴いた。それが人気があるそうだ。おばさんの時間とかおばあさんの時間など、幅を持たせたほうが良いとおもう。タイムテーブルをみると、すべて若い方がターゲットになっているように感じる。
- 事務局 プロ契約しているパーソナリティはタレント事務所からの派遣か自社養成しかない。自社養成に関しては、子育てを終えて何か・・・という方が多いため年齢が偏っているのも事実。それ以外は完全なボランティアである。
- 委員 年寄りはそれでいい。人によっては、お金を払っても語り掛けたいと思っている。
- 事務局 良い方がいればご紹介いただきたい。
- 委員 私はFMゲンキのしゃべりができないので無理であるが、やりたい人もいるのではないか。
- 局長 養成講座については、年齢制限を行っていない。希望があれば何歳でも参加できる。ただ現実には参加しにくいのではないかと感じている。パーソナリティ養成講座というしくみはとてもよい制度だと思っている。GENKIラジオクラブから養成講座を受講し、やる気と努力があればオーディションに合格して番組を持つということもできる。どんどん参加してほしい。
- 委員 スカウト制はあるのか？

- 事務局 場合によってある。ニュースを読む、コマーシャルを読むというのは訓練をつんでいただく必要があるが、それ以外の部分、ゲストパーソナリティ的なものであれば、番組の幅を広げるという意味では必要。
- 委員 例えば私が見つけてきて、面談していただいて、よければ講座代金を免除していただくということもあるのか？
- 事務局 十分に考えられる。ちなみに、ふれあいリポート79.3に参加されている方で60代の男性もいらっしゃる。その様な方も応援して行きたい。
- 委員 年齢・性別だけでなくキャラクター的なもので売れるパーソナリティが出てきても良いと思う。聴いたり見たりして温かい気持ちに慣れるような人を発掘するプロジェクトが必要。
- 事務局 これまでは、ちゃんとニュースがよめる、ちゃんと原稿が読めるということを中心にしていたが、それはそれとして、別の部分で「この人はこれに詳しい」とか「この人の話はこんなにためになる」という人を見つけていくことも必要かもしれない。
- 審議会長 プロジェクト的な位置づけで頑張っていたきたい。大変かもしれないが。
- 事務局 体験講座については、フリーマガジンやラジオなどで告知をする予定だが、多くの人に参加してほしい。
- 委員 姫路の方の性格として、背中を押されないと出てこないという方が多いように感じることもある。なので誰かが推薦なりスカウトなどで声をかけていくことも必要ではないか。先週1週間、母にFMゲンキを聴くようにと依頼し、聴いてもらった。感想としては、非常に安定しているという印象をもったようだ。逆に、素人さんが作っている番組は、へんなところで笑いが入るなどわかるようになっている。FMゲンキのパーソナリティというものと外部の差が出来てきているので聴きやすくなっているようだ。ただ、それを裏返すと、誰がしゃべっていても何をしゃべっていても同じに聴こえるということでもある。だからこそ、時には「えっ!？」というものも必要ではないか。しゃべり方もみんなまねをしているような印象を受けるようだ。
- 事務局 他局さんの話を聴いていると、パーソナリティのタイプや番組のタイプは似てくるようだ。だからこそ、時には冒険も必要であると思う。オー

ディションにおいても、当社としてはAだなどおもっても、あえてBを取るといふことが必要になってくる。どうしても自分たちが聞きなれているタイプが良いと思ってしまう。

委員 黒田官兵衛が大河ドラマになるまでということについて、番組の中でも取り上げているようだが、これから5年間、ずっと取材し続けるとか、今日の黒田官兵衛は？など、追いつける企画を行なうと良いのではないか。そのような会議にFMゲンキが常に入るといふことがあっても良いのではないか。それで動きにくいものも動きやすいといふことがあるのではないか？FMゲンキがなかったら大河ドラマにならなかったんだといふぐらいの勢いが必要。

パーソナリティの研修講座について、パーソナリティが自分で動いて企画してといふことはどんどん提案してもらったほうがいい。田んぼアートでもなんでも取材をして、そのかわりにスポンサーとしてお金を出してほしいといふ取り組みも良いのではないか。元気を取りに行くだけでなくスタッフみずから元気を作り出すといふことも必要。

もう一つ。FMゲンキが核になってといふ企画もあつて良い。サポーターの件について、私の友人でも“FMゲンキに出た”と自慢する人がいる。私も毎日新聞で農業賞を貰ったことがあるが、その人たちで取り組みを行なったりもしている。FMゲンキに出演したといふ人たちがつながっていけば、おもしろいのではないか？

小幡課長 年間3000人が出演している。

委員 そのあたりをサポーターとしてつなげていけたら、番組作りにもスポンサーとしても生かしていける。

事務局 ご出演いただく方は、何かをされている方がほとんどである。

委員 その人たちが自分のたちのためといふわけではなく、FMゲンキに寄附するといふことがあつてもいいのではないか。今度、ゆめそばのパッケージをある事務所につくってもらうが、普通ならすごい金額がかかる。そこで事務所が手を加えることで、違ふ方法が生まれてくる。修理中の5年間は本当に大変だとおもう。周辺が大手企業ばかりの店になるかもしれない。それはいやなので、何か一つ応援していけるような取り組みをやっていたら有り難い。

審議会長 私から一つ。これから新聞・ラジオ・テレビの垣根がなくなつてきて、

ネットと融合していくと言う流れになっていくと思われる。その様な中で、FMゲンキがどのような形でやっていくかということ、将来を見据えて考えていく必要があるのではないか。ネットへの投資や積極的な取り組みも必要。姫路ローカルの様々な情報が集まってくるなかで、それをFMゲンキが上手く料理をして再発信するなど。また、Youtubeなどと連携すれば、いままで耳でしか聞けなかったものが動画も付け加えていけるのであれば、それでCMを流したりと言う応用ができるのではないか。そのためには、今までのノウハウを共有して、次の資産となるようなものを積み上げていくということ、今日の試聴などを通じて感じた。

午後3時、以上の報告・討議・検討を終了し、閉会した。

公表年月日 平成22年9月25日

公表内容 審議の概要

公表方法 自社放送22時30分～23時00分「GENKI傑作選」内
事務所据え置き、ホームページ (<http://www.fmgengi.jp>)

以上